



## 岡山県合唱連盟機関紙

トゥッティ 第74号

発行責任者：岡山県合唱連盟事務局長 山田 威夫

事務局：岡山市北区京山 2-3-9-601

TEL：070-5673-1524 FAX：03-6862-9869

電話受付は留守電対応となります。

<http://www.geocities.jp/jcaokayamahome/index.htm>

編集者：岡山県合唱連盟事務局次長 西山 隆幸

E-mail：NishiyamaChor@gmail.com

# 春期合唱講習会 in 高梁 in 岡山

平成21年5月23日(土)に高梁市にて、24日(日)に岡山市にて合唱講習会が開催されました。講師はお馴染み、大志万明子先生。今年も高梁市童謡のまちづくり推進委員会に共催いただき、高梁と岡山の2箇所での開催ができました。

折しも新型インフルエンザが世界流行する最中、不特定多数の参加者が集まるイベントの開催が危ぶまれていましたが、流石は晴れの国、無事に開催することができました。手の消毒スプレーが設置された会場に、多くの参加者が訪れました。高梁では小中高の学校合唱団、おかあさんコーラスを中心に110名、岡山では大学の合唱団を中心に127名が参加、声に磨きをかけました。

大志万先生は楽しく分かりやすく、時には団体ごとに焦点をあてて実践的に指導してくださいました。特に岡山では大学1年生の合唱若葉マークが多く、講習開始直後は若々しくも生々しい声が出ていましたが、終了前には驚くほど「合唱の発声」になっていました。高梁でも「去年よりも多くのことが理解できた。自分の発声への理解に応じて学べる事も変わっていくんですね」との声も。

発声の大切さを分かっている人は多くても、発声トレーニングを重要視できる人は中々居ません。草野球の試合の方が毎日素振り千回より楽しいものです。ですが発声をマスターしてからのほうが、声質、音程、音量、表現、音取りの早さ、疲労軽減に有利なのは間違いありません。

どうぞ講習会の中だけでなく、日頃の練習の中で講習会の成果を生かしてください！

事務局 西山 隆幸



平成21年3月20日(金)～3月22日(日)に福島市音楽堂大ホールにて「声楽アンサンブルコンテスト全国大会」が開催され、岡山からは3団体が参加しました。各団よりメッセージをいただいています。

# 声楽アンサンブルコンテスト全国大会



## 「きもちよかった！」

倉敷少年少女合唱団 難波 夕鼓

「まあ、全国には『だめもと』で応募しとこうか・・・。」なぜなら、倉敷少年少女「ジュニア」は、団の主力である高校生を除いた、小中学生の「小さい子」チームだったから。

県大会当日。演奏はますますだったが、2年前、ジュニア部門で(最)優秀賞を頂いた、ベストメンバーで臨んだ演奏には及ばなかった。金賞がいただけでホッとした。

ところが、「一般部門代表は、倉敷少年少女合唱団ジュニア!」「えーっ!うそー?」その日から、ジレンマに陥った。全国大会で団として最高の演奏をしなくてはならないのに、団で最も実力のある高校生を連れて行けないのだ。(笑)

全国当日。1曲目、子どもたち緊張のあまりか、音程が狂う。2～4曲目はOK。

ホールの響きがとにかくすばらしい!(※)ので、残響を活かすため、即興でいつもより間を長くとったりしたが(今から考えるとちょっと恐ろしい)、団員も練習の成果か、ぴったり指揮についてくる。指揮することがこんなに気持ちいいなんて!

演奏終了後、団員が興奮して言った。「最後の余韻がすごかった!」

やはり、全国のレベルの高さは相当なもので、入賞はできませんでしたが、未熟な私達に全国という貴重な経験の場を与えて下さった県の審査員の先生方、県連盟の方々深くお礼を申し上げ、今後の団の実力向上に励みたいと思います。ありがとうございました。

※「福島音楽堂」遠くても一度は演奏する価値のある素晴らしいホールだと思います。



## 「大切なことがたくさんある」

上道中学校合唱部 3年(3月時は2年) 大森 麻衣

今回アンサンブルコンテストの全国大会に出場させて頂いて感じたのは、技術以外に大切なことがたくさんあるということです。

全国レベルにもなるとハーモニーが綺麗なのは当たり前といった感じで、どの団体もとても精密な音楽作りをされていました。そんなレベルの高い演奏の中で客席で心に響いた演奏は、言葉の扱い方がとても丁寧な演奏や、パート間の関わりがまとまっている演奏でした。

私はこれから、今回学んだことをいかし、精密な技術を高めると同時に、曲の持つ雰囲気や言葉を素直に表現するために必要な力をつけていきたいです。

## 声楽アンサンブルコンテスト全国大会を終えて 高梁中学校合唱部 顧問 古賀 昌洋



高梁中学校合唱部は2月8日に総社市市民会館で行われた「第16回岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテスト・ジュニア部門」で金賞を獲得し、3月20日に福島市音楽堂(福島県)で開催された「第2回声楽アンサンブルコンテスト全国大会」へ初めて出場しました。コンテストで披露した曲は、寺山修司作詩、信長貴富作曲の「種子」。優しさや愛情をみんなに分け与えることができるのかを問いかけている内容の詩です。詩に込められた意味をじっくりと考え、二部合唱でその思いが伝わるように歌い上げました。はじめての全国大会の舞台。部員は1年生4人、2年生10人と他校に比べ少人数ですが、このことがあっていいチームワークとなり、私たちの合言葉「一音入魂」で頑張ることができました。また、中学校の職員やトレーナーの方、伴奏者、保護者など、支えてくださった多くの人たちに感謝の気持ちを込めて力を出し切ることができました。

# 文化こそみんなの心をつなぐ 一音楽<歌>を通したまちづくり

## 《完結編》 岡山県合唱連盟副理事長 矢内 淑子

### 2) 滋賀県蒲生郡日野町の「わたむき音楽祭」「ちんから峠のうたまつり」

滋賀県蒲生郡日野町は、滋賀県の南東部に位置し、鈴鹿山系の西麓に広がる地域である。町の東に連なる鈴鹿の山々は「鈴鹿国定公園」があり、天然記念物「鎌掛谷のホンシャクナゲ軍群落」をはじめ、四季折々の豊かな自然に恵まれている。総面積 117.63 平方km<sup>2</sup>、人口 2 万 3,280 人、世帯数 7,651 世帯(2007 年[平成 19]年 3 月 1 日現在)である<sup>1)</sup>。1995(昭和 30)年に 1 町 6 村が合併してつくられた町で、現在、「日野町自律のまちづくり計画」(2001[平成 13 年]～2010[平成 22]年までの期間)を定め、日野町では住民参加と協働による「自立したまちづくり」を目指している。



### わたむき合唱祭

#### 【概要・経過】

「わたむき合唱祭」は、町内合唱団と指定管理者である日野町文化振興事業団が一体となって企画進行を行う住民型事業である。日野町文化祭合唱の部を「わたむき合唱祭」と改め、日野文化祭協会所属の合唱団が、非所属の一般合唱団、学校の合唱クラブ、児童合唱団を巻き込んだ形で 1997(平成 9)年に始まり、次年度から本格的に独立して、日野町文化振興事業団の自主事業と位置づけ、2007(平成 19)年で 11 回を迎えた。この演奏会は、毎回テーマを決めて単なる合唱団の発表会に終わらせず、見せる合唱を合言葉に、第 1 部は各合唱団の独自発表、第 2 部は合唱団が協力して企画ステージを製作するなど、参加者も合唱団にとどまらず地域のさまざまな分野の方の参加をお願いし、住民参加型事業として広がりを見せながら、今日まで続いてきている。

#### 【特徴・成果】

##### ① 事業団職員と合唱団の関係

各合唱団の代表からなる「わたむき合唱祭実行委員会」は、月 1 回の実行委員会で意見交換をしながら、第 2 部のテーマの検討、衣装、舞台セットの製作、広報物のデザイン、広報掲載事業の発掘、演奏会内容、チケット販売を行っている。日野町文化振興事業団は事務局として、実行委員の招集、事業資金の捻出、当日のステージトータル演出、出演者との交渉、スケジュール、広報媒体の制作、受付を行う。合唱団と指定管理者である事業団が密接な関係を維持しながら運営することは、合唱団側としての利点として、発表会の機会

が増える、それぞれの独自発表の際に事業団管理ホールが使用しやすくなる、文化イベントの情報収集も容易になってくるなどが挙げられる。また、事業団はわたむきホール虹を中心に日野町の文化振興、文化的向上を担うことができ、他事業のチケットの販売協力も得られるなどである。つまり、互いの利害関係が一致していることが特色となっている。

##### ② 演奏会内容

第 1 部は合唱団の独自発表、第 2 部の企画ステージは、出演する合唱団も客席で聴くお客さんもお互いに楽しめる舞台を目指して、毎年テーマを決めて工夫を凝らしている。特に第 2 部の発表内容・演出は団に任されており、衣装・振り付け・舞台セット等々、合唱団の中での意見交換は団の運営の活性化につながっており、年々各団の独自性が出てきて楽しい演奏会になっている。制作面でも脚本・作曲・編曲を実行委員や事業団職員、指導者が担当したり、少年少女合唱団の子どもたちが進行役をしたりすることもある。演目によって、出演者も合唱団の他に、地域の劇団、演奏集団、ダンスチーム、朗読サークルの方、幼稚園児にも参加をお願いするなど地域を巻き込んでの企画ステージは人気があり、第 2 部だけを鑑賞に来館する観客もいるほどで、観客の増加につながっている。

##### ③ 指導者について

複数の団体が参加する事業においては、指導者の姿勢、あるいは利害関係などによる障害が起きやすいが、長年功績のある先生を中心に、指揮者同士一致団結して行われている。

＜次ページへ＞